～技術士（建設部門、施工計画・施工設備及び積算）の合格までの記録～

norinari
技術士（建設部門）

1.はじめに

私の経験が今後、技術士を目指す方々の参考や受験に対する意欲向上のきっかけになればと考え、記憶があいまいになる前に記録し、整理したものであり、あくまでも個人的私見です。

2.平成 16 年度、技術士一次試験の受験

私は、平成１１年から平成１８年まで、財団法人出向し、〇〇〇〇〇〇〇〇〇事業所発注の河川工事に係る現場技術業務の技師として携わっていました。

その当時、私の補助員である技術者が、平成１５年にこっそり（故意に隠していたか、言う必要がないと思ったか定かではないが）技術士一次試験を受験、合格し「やあ、技術士の一次試験に合格してしまいました。」といったことが、私の技術士受験のきっかけでした。

後輩の一次試験合格（一発合格）は、私にとって、かなりショックであったとともに、悔しさと嫉妬があったことは、素直に認めるところです。

発注者との親睦会などの席で、「技術士補かぁ、すごいな」などといわれているのを見るのは正直、面白くなかった。（人間の卑しい部分でもあるがこの気持ちがまったく無ければ、技術者ではないと私は考える）

この状況を打開するには、彼よりも早い「技術士二次試験合格」しかないと考えた。今考えると動機が不純ではあるが、こういったきっかけが無ければ、技術士など受験しようとも考えなかったであろう。

私は、平成１６年に技術士一次試験、VE リーダー（会社の命令）、SXF 技術者の３つを受験することとした。（後で後悔したが・・・）

業務時間内での受験勉強はルール違反と考え、職場では一切勉強はせず（後輩に受験が知られるのがしゃくだったのもある）帰宅後、毎日１～２時間、勉強した（VE リーダー、SXF 技術者の順に）。VE リーダー、SXF 技術者の試験は、手ごたえ十分であったが、もともと勉強嫌いの私のこと、集中力・モチベーションが維持できず、一次試験のころには、学習意欲が当初の 10%程度で、「落ちてもしょうがないかぁ」的な気持ちになっていました。

受験地は〇〇（〇〇〇大学）で私が住んでいる〇〇町から車で６時間はかかるため、ホテルを予約し、前のりすることとしました。前日、ホテルに入り資料を通読する程度で就寝。

受験当日、渋滞や混雑を避けるため、試験の開始１時間前には、試験会場に到着し、試験開始までの間、ロビーにて資料に目を通していた。

私は、１級土木施工管理技士を取得していたため、共通科目については免除であったことから、適性科目、専門科目、基礎科目の受験であった。

<u>適性科目</u>

問題を見てびっくり「こんな一般常識を 50%の正解率って・・・」ちょっぴり気が抜けた。適性は、問題なく終了。（後で１問、記入ミスが判明し、全問正解とはならなかったが）

専門科目

資料の通読だけでは、難しく、考えても考えても、自信のある答えを導くことが出来ず、迷いながらも終了。この時点で、不合格を確信。

昼食をはさみ、基礎科目であったが、食事する場所が無い！売店も混雑しとても買える状況に無く、大学を出てコンビニに行ってみるが、すべて売り切れ（菓子パンすらない)、結局 300m ほど歩き、ラーメン屋に入ったが、この時点で試験開始まで 30 分、「味噌ラーメンを大至急！」と頼み、幸運にもすいていたため、15 分で店を出ることが出来た。（口の中は火傷し、冷たいものにするべきだったと後で後悔）

昼食後、すぐに走って会場に戻り、何とかセーフ。しかし、汗が止まらない、会場にはエアコンが無く、ラーメンと全力疾走で私の汗腺は全開状態。試験が終了するまで汗がおさまらなかった。

基礎科目

噴出した、汗はひく様子もなく、試験開始。解る問題（自信のある問題）からと考え、問題に目を通すが、30 問中 7 問しかない。選択肢が２つまで絞れた問題が 10 問。後の 13 問は、ほとんど自信がない。

・・・・まずい。考えれば考えるだけ迷ってしまう。4 問は、「なんとなくこれだろう」というものを選び、残り時間 5 分で、「後は直感だ！」とマーキング。

名前、受験番号等確認し、選択問題数に間違えがないか？チェックし、ぎりぎりで終了。

試験終了後

「やっぱり、甘いものではないな。来年、また出直すか・・」と考えつつ、帰宅。

数日後、正答が発表されたので、一応、自己採点してみる。

適性科目　　・・・・・１４問×１点＝１４点（８点以上）
専門科目　　・・・・・　６問×１点＝　６点（６点以上）
基礎科目　　・・・・・１４問×２点＝２８点（２０点以上）
専門科目＋基礎科目・・　６点＋２８点＝３４点（３３点以上）
・　・・・ってことは・・・・合格？？？

もしかするかも知れないが、「不合格だったら、格好が悪いな。おちたっていっておこう」ということで、まわりには、「不合格じゃないかな」といっていました。

合格発表当日

例のごとく、AM5:00 に技術士会の HP でチェック。「あった、あった」とりあえず一安心。

妻にも報告。「へ～・・すごいね。３連勝じゃん。」

そうだった。VE リーダー、SXF 技術者に続き、今年３回目の合格であった。

来年は、いよいよ二次試験だ。と安易に考えていた。

３．平成１７年　技術士第二次試験受験

一次試験で後輩に先を越されたのを教訓に、期間を置かず１発合格を目指し、願書提出。

もちろん、後輩には、内緒である（子供じみているが）。

まず、出題傾向などの情報を収集するため、インターネットで検索。ここで、「技術士受験を応援するページ」と出会うこととなる。ホームページや掲示板を拝見させて頂き、その情報量と情報を提供されている方々の寛大さやモチベーションの高さに驚きました。また、技術士への壁みたいなものも感じました（自分は本当に技術士になれるのか？なってよいものなのか？）。

このホームページからたくさんの情報を頂き、試験勉強を開始。

建設一般では、早速、国土交通白書を購入し、通読（熟読するにはスタートが遅すぎた）、択一の過去問の整理と、当時この HP に UP されていた「択一の模擬試験問題」や青い炎さんのガチンコ技術士学園の「択一想定問題」をひたすら解きました。

建設一般記述・専門問題・経験論文については、当時の「虎の穴」に申し込み、添削を受ける事とした。身近に技術士の方がいない私にとっては、本当に有難い話でした。また、この「虎の穴」に申し込むことで、「こういう活動に参加できる技術士になりたい。」という思いが芽生えてきました。それまでの私は、「給料 UP のため」や「昇格」、「転職のためのスキル」という自分本位の理由で受験を考えていました。本当に得るものが大きい出会いでした。

この年から講師を引き受けてくださった〇〇さんとのお付き合いが始まったのですが、この出会いも私にとって何にも替え難いものとなりました。

「虎の穴」では、まず経験論文の添削をお願いすることとなりましたが、第一回めの添削結果は、強烈なものでした。本当に受験をやめてしまおうかと思うほどの結果で、正直ショックでした。（今、自分自身で読んでみると、「これじゃ～な」と思いますが）

おそらく、この時点で、あきらめるというか、講師の意見を取り入れられずに反発して、我流で突き進んでしまう方も多いかと推測します。

ここは、大きな分岐点だと私は考えます。

人からの指摘やアドバイスは、自分に自信のある方にとって受け入れ難いことも多いことだと思います。しかし、技術士にふさわしい技術者になるには、「人の意見を聞く」という姿勢が必要であると考えます。そうでなければ、その方の技術力は、裏付けのない独りよがりのものとなってしまうでしょう。

また、安易に言われたまま、修正するのも問題があります。（私はこのタイプでした）

添削指導されている講師の方は、この経験論文の内容を実際に経験した方ではありません。ですから、書いた本人は理解していることでも、読み手にとっては、わからないことが多い訳です。こういった場合は、ちょっとした説明や図表の挿入により、解決する場合もあります。

安易に修正するのではなく、納得いかなければ講師の方に内容の意図を説明することも大切だと思います。

私は、ここがうまくできず、きっと〇〇さん（講師の方）にも迷惑をお掛けしたことと思います。

専門問題については、「虎の穴」では、添削の範囲にありませんでしたが、〇〇さん（講師の方）のご好意により、おこなって頂きました。

こうして、４月上旬から試験の前々日まで、必死に勉強しましたが、ほとんど、想定問題の解答の暗記と筆記速度の向上に時間をとられ、知識を体系的に整理することができず、問題の予想が外れると、全滅状態になるという中での受験となってしまいました。

受験前日

受験会場までは、300km もあるため、ホテルを取り、前日に移動することとしました。PM3:00 ごろ、ホテルに着き、夜 11:00 ごろまで、筆記の練習をして就寝。

受験費用も交通費も宿泊費も全部自腹のため、家計的にも大きな負担となる中、出費を快諾してくれた妻には、今でも頭が上がりません。

試験当日

会場には自家用車にて移動のため渋滞などを考慮し、試験開始 30 分間前までに着くよう AM7:30 にホテルを出発。想定よりも早く 8:00 には、会場前に着きました。車の中で択一の問題を解いたり、経験論文の図表の数字等の確認を行い、会場へ。

会場に入ると、受験者数の多さに圧倒され緊張が頂点に。この年から会場が変わり、一次試験受験時の会場は、某国立大学で、受験生は受付を済ませると次々に教室へと移動するため、さほど「多いな」と感じることはありませんでした。

試験開始----------

経験論文

これについては、用意した解答案をそのまま再現することが出来たが、時間的余裕はなく、相変わらず筆記速度が遅いままであった。

昼食は、朝、コンビニで購入したカロリーメイトと麦茶で済まし、専門問題の解答案に目を通す。まわりでは、明らかに社命で仕方なく受験している人が、いびきをかいて熟睡中。ふと「こんな人（参加するだけの人）の割合はどのくらいなのかな。こういう人を控除して、真剣に準備した受験者の合格率は 40%～50%ぐらいはあるんじゃないの？」なんてことを考えてしまう。（これが結果的に今後のモチベーション維持に役立つこととなる）

専門問題・建設一般

試験開始と同時に、不合格決定！

建設一般記述：予想問題が「東アジアとの新たな関係」だったのが、「災害に強い国づくり
と「京都議定書、地球温暖化対策」。

専門問題についても

入札制度：予想が「民間の技術力を活用する入札方式」に対し「品確法」

原価管理：予想が「実行予算・施工計画の概説と原価管理における実行予算の役割」に対し
「原価管理の手順の概説（PDCA）原価低減手法」

もう、変な汗が止まりませんでした。

とにかく、思いつくまま、書きなぐりました。筆記の速度が遅い私には、文章構成を考えている暇はありませんでした。

なんとか書きあげ、択一へ、しかし残り時間１５分。もう読み返している時間はなく、直感でマーキング。
最後のマーキングを終了したと同時に試験終了とのアナウンス。
答案を回収箱に入れ、荷物を片付け会場を後にする。

帰宅途中の車中（約 6 時間)、これまでのことを振返り、次年度の試験について、受験するか、あきらめるか考えながら運転していました。自宅に着き、もう、夜中の 12 時を過ぎているというのに、おきて待っていてくれた妻に「お疲れ様でした」といわれ「ごめん、だめだわ」と答えると、「いいじゃない。また来年頑張れば。しかもまだ結果は出てないし。」との答。
わたしは「そうか、来年もうちょっと頑張ればいけるかもね。まあ、今後ゆっくり考えるよ。」と答える。
受験にかかる費用がおよそ 5 万円、試験前の１週間は、母子家庭状態。そんな家庭を犠牲にしての受験。本当に続けてよいのだろうか、いつか合格するのだろうか。
そんな自問自答は、合格発表の日まで続きました。

合格発表（平成 17 年 11 月 10 日）

不合格とわかっていても、人間の思考とは都合の良いもので「もしかして・・」なんてことを想像してしまうものである。
朝 4:30 に起き、技術士会の HP をひらく。5:00 ちょうどに更新し、合格発表のページへ・・
建設部門・施工計画と開き・・・・撃沈。
もう一度、布団に入るが、眠ることもできず、6:00 に出勤の支度を始める。
妻が起きてきたが、試験の結果には触れない。気を使ってのことだとは思うが、逆につらい。
「やっぱり駄目だったわ」というと、妻は「だ・か・ら、いいじゃない。また来年うければ。40 歳まで頑張ってみて、それで駄目だったらあきらめてもらうけどね。」と笑い飛ばしてくれた。私の気持ちは、この言葉で、吹っ切れた。
「だらだら（試験会場でみた人のように)、何年も受験するのではなく、「今年こそ！」と１年やってみて、駄目だったらまた考えて、というように、１年１年真剣に取組んでその結果、５年以内で合格しなければあきらめる。」と期限を区切って挑戦することとした。
会場で目にしたり耳にしたりした「あきらめ組」の行動や発言を思い出し次のような都合の良い推測をしました。
☆私の勝手な推測----------
受験者数を 100 人として
合格率（対受験者数） 15%程度と仮定すると、合格者は 15 人
しかし、受験者数の内、やる気のない人が 30%（私の勝手な推測）
やる気はあるけど、準備不足だった人が 50%（これも勝手な推測）
とすると・・・・・
15 人÷（100-30-50）× 100 = 75%（勝手な妄想上の合格率）

（頑張れば、もしかするのでは？）

なんだか変なやる気が出てきた。

＄＄＄

平成１７年試験結果

建設一般　：B

経験論文　：B

専門問題　：C

普通の人は、この結果では、あきらめるのかもしれないですが、幸いなことに私の思考回路は単純というか、めでたいというか、この結果であきらめることはありませんでした。

＄＄＄

４．平成１８年　技術士第二次試験受験

前年度の反省を活かし、試験対策は、１月からスタート。

まず、選択する専門問題について、再考してみました。

①前年度は、入札制度と原価管理を選択したが、入札制度そのものの出題は、毎年あるわけではなく、適正化法や品確法に絡めた出題もあり、的が絞りづらい。

②原価管理については、専門的知識の拡大を進めれば、何とかなりそう。

③その他の問題で、出題傾向にあまり変化の無いものとしてコンクリートが浮上した。

ということで、専門については、コンクリートと原価管理を主軸におき予備的（余力があれば）に入札制度をまとめる方向としました。

建設一般については、国土交通白書が４中旬に発表されることから、この発表を待ってから対策をねることとした。

具体的な流れとしては、以下の通り

１月～３月

・専門問題の想定問題と解答案の作成（格３問）

４月

・SUKIYAKI 塾の受講により、経験論文の添削、修正（また○○さんにお世話になる）

・建設一般択一対策として「ガチンコ技術士学園の受講」

・建設一般記述の想定問題と解答案の作成（３問）

5月～6月

・各論文の添削・修正・推敲。

・択一の演習問題による演習。

7月～８月

・各論文の記述練習とスピードアップ

・各論文の微調整
・択一の演習問題による演習。

受験日前の一週間

・各論文の微調整と記述練習
・建設一般のここ一年のトピックなど見識の拡大
・専門知識の拡大（新技術など）
・体調管理の徹底

記述スピードの向上のため、右手の指が腫上るほど、書いて書いて書きまくり、その甲斐あって、記述の時間が１枚当り 25 分程度かかっていたもの 18 分〜20 分まで短縮することができた。

試験前日

昨年と同じようにホテル（格安ホテル）を予約し、前日に移動。

今回は、多少気持ちにも余裕があり、「じたばたしてもしょうがない」と考え、３時間程度、資料に目を通し、10 時ごろには就寝した。

試験当日

昨年と同じように 7:30 にはホテルを出発し、コンビニで「カロリーメイト・麦茶」を買い、会場へ。

途中、かの有名な歓楽街を通るわけだが、飲酒運転らしき車が「お前！今、幅寄せしただろう！」と根拠のない因縁をつけられた。私は片側２車線の中央線側で信号待ちしていたが、右側の右折車線にこの車が止まっていた。信号が青になり私は直進したわけだが、なにやら後方でクラクションが鳴りわけわからず左に車を寄せ、車から降りると酒臭い５０代のおじさんがやってきて、因縁をつけてきた。ここでトラブルになって一年間の努力が無駄になるのは、不本意なため、非常に憤慨したが、「ああそうですか。」とやり過ごした。酔っ払いは、意味不明なことをつぶやきながら「気をつけろよ！」と捨て台詞をはきどこかへ行ってしまった。

非常に気分が悪くなり、テンションが下がった。それはさておき、あの酔っ払いが、事故を起こし怪我人でも出たら大変なので、交番に立ち寄り、そのときあった出来事を話しておいた。（一応ナンバーもわかっていたので伝えた）事情聴取なんてことになるのは困るので、受験者であることを話し、連絡先を伝え、「何かあったら連絡します。」と手早く対応してもらった。

それにしても気分が悪かった。

おかげで会場に着いたのは、8:35 でギリギリであった。

試験開始----------

経験論文

用意した解答案を再現でき、見直す余裕もあった。まったく問題ない。終了。

何だか、テンションがあがってきた。（本当に単純な思考回路だと自分でも思う）

昼食

気分良く、カロリーメイトを口にし、すっかり朝の出来事を忘れていた。

建設一般記述

予想問題が「安全・安心大国」「東アジア」だったのが、「維持管理・更新投資が増大すると見込まれる中・・・」と「社会資本整備における工事の品質確保に関する方策」であった。

前者を選択し、“はじめに“と“終わりに“を自分の知識の中から使えるものをピックアップし、その場で書き上げた。具体的な内容についは、安全の確保と維持管理や構造物の老朽化は密接な関係にあることから、多少の文言に修正で対応できた。

専門問題

コンクリート：予想が「コンクリートの劣化と施工計画上の留意点」等に対し「寒中コンクリートの施行計画上の留意点」

この問題は、北海道在住の私としては、普段の業務経験から次々と記述すべき事項が出てきて、すんなり記述することができた。（このことと、建設一般での「その場での構成」が次年度受験対策に大きな意味を持つことになる。）

原価管理　　：予想が「実行予算・施工計画の概説と原価管理における実行予算の役割」「原価管理上の実行予算の役割」「原価低減の具体的な手法」に対し「調達管理、支払管理、収支管理」

これが、今年の最大の難関であった。（完全な知識不足である）

この知識不足には、対応しようがない。知識があって、その場で論文を練り上げることは出来ても、知識がないのでは、無理に記述しても致命的な間違いが発生する。現実に私は致命的な間違いを起こしてしまった。設問に「調達管理、支払管理及び収支管理」と書いてあり本来、調達管理・支払管理・収支管理をそれぞれ概説すべきところを調達管理と支払・収支管理としてしまった。（結果的にこれが致命傷となった）

建設一般択一

択一についても、多少悩むところはあったが、感触として７割はいけそうであった。

ガチンコ技術士学園の青い炎さんに感謝である。

試験終了

それぞれ、見直す余裕もあったが、原価管理だけは、どうしようもなかった。

帰宅途中、食堂に入り原価管理についての資料をみて「こりゃ駄目だ。」とあきらめた。

しかし、昨年度と違ったのは、漠然とではあったが、対策の方向性が見えてきたような気がして、次年度の受験に意欲があったことだ。

帰宅し昨年と同じように、妻が「お疲れ様でした。」とねぎらってくれた。去年は、話すことが出来なかった２歳の息子が「お疲れ様」と迎えてくれ、1歳２ヶ月の娘もハイハイしながら笑顔で迎えてくれた。

今年は堂々と「来年も宜しくお願いします。」と私。それを聞いた妻は、「こちらこそ」。

何だか、やり切った気分であった。

合格発表　（平成 18 年 11 月 9 日）

今回も一人、インターネットで不合格を確認。残念ではあったが、昨年よりも成績は良いはずと確信があったため合否の結果より評価が早く知りたかった。

また妻に「やっぱり駄目でした」というと「はいはい、また来年。だけど落ち癖だけはつかないようにね」とちょっと辛口になってきた。

＄＄＄

平成１８年試験結果

建設一般　：A

経験論文　：A

専門問題　：B

この結果で断然やる気になってきました。

＄＄＄

５．平成１９年　技術士第二次試験受験

昨年度の経験から、次のような課題が見えてきた。

① 想定問題と回答案の事前作成を先にやってしまうと知識が固定化し視野が狭くなってしまう。

② 体系的専門知識がまだ少ないため、設問の変化に対応できていない。

③ 論文形式にこだわりすぎて、文章が難解になっている。

モチベーション維持のため休憩期間を取らず、一日一回は資料に目を通す（10 分でも良しとし）こととし、合格発表の次の日から開始した。

不合格通知が届き、さらにやる気が出てきた。

今年は、択一と経験論文が筆記試験から姿を消したため、昨年に比べ、時間的余裕があったこともあり、じっくりと時間をかけ、資料を整理することが出来た。

本当は、試験制度の改正前に合格したかったのが本音だったが、そんな事言っても仕方がない。今年こそ合格するという決意を持って、準備に打ち込んだ。

具体的な流れとしては、以下の通り

1月～3月

・専門分野（コンクリートと原価管理）キーワードについての体系的整理。

4月

・専門分野（コンクリートと原価管理）キーワードについての体系的整理。

・SUKIYAKI 塾の受講により、経験論文の骨子の添削、修正（また〇〇さんにお世話になる。骨子とは言いつつ結局、論文全体の添削をお願いすることとなる。）

5月～6月

・建設一般の予想問題の整理と体系的知識の整理。

・専門分野のキーワードの覚えこみ。

7月～8月

・各科目の記述練習とスピードアップ

・想定問題と解答の練習

（その場で構成を決め時間内に記述する練習）

・H１７年・H１８年の資料に目を通し、知識の再確認。←これがポイントであった。

受験日前の一週間

・各科目の見識の拡大と記述練習

・建設一般のここ一年のトピックなど見識の拡大

・「技術士受験を応援するページ」を久々に見ると、「骨子法」の提案があった。

「これはいい！」と思ったが時間がない。散々迷ったが、挑戦してみた。しかし、自分なりの考えを反映させることまでは出来ず。APEC さんの作成した資料をつなぎ合わせたような形になってしまった。（今でも反省している）

・体調管理の徹底

試験時間が延長されたこともあり、記述はスピードよりも“正確”“丁寧”に記述することに気を使えるようになった。文章構成もじっくり練る時間もあり、私にとって試験制度の改正は吉と出たかに見えた・・・・・・が・・・・。

試験前日

例年と同じようにホテルを予約し、前日に移動。

ふと、考えてみると一次試験を含めて、今まで同じホテルに泊まっていない。今年始めて一次試験時にとまったホテルに泊まることとなった。なんか、合格の予感？

午後３：００にチェックイン。軽く食事をして、資料に目を通す。午後７：００ごろ夕食をとりに近くのラーメン屋に行く。８：００ごろホテルに戻り、１０：００ごろまで、記述の練習。何だか、今年は、気持ちにも余裕がある。

シャワーを浴び、就寝。

試験当日

今年は、試験開始時間が遅くなったことから、朝少しだけゆっくり出来た。

８：００にホテルを出発し、８：３０には、試験会場の駐車場に着いた。時間がたっぷりあるため車の中で資料に目を通す。

９：２５に会場に入り、試験中に飲むお茶を自動販売機にて購入し、ラベルをはがす。

トイレが混雑する前に、用を済ませ、筆記用具を並べて準備完了。ここまできたら、悪あがきをせず、じっと試験開始時刻まで待とう。

試験開始----------

建設一般

予想問題：「地域の活力向上に資する社会資本整備のあり方。」

出題　　：「産業構造の変化等により、人口減少傾向にある地域における社会資本整備の課題を挙げ、厳しい財政の制約の下で、地域の活性化を図っていくための社会資本整備のあり方について、具体策を示しあなたの意見を述べよ。

ニアピン！冒頭の２行に「わが国の地方における社会資本整備をとりまく状況については、次のようになっている」とし、これにあった、現状→課題→向かうべき方向性と具体策というように構成を約４０分で決定し、かき始めた。現状をどれにするか決定したら後は、すらすら出てくる。本当に、「目からうろこ」である。

終りにで、「地方の密着した、建設部門の技術者として・・・・」とアドリブで思っていることを書き、完成。時間があったので、アンダーラインなどを引いたり、読みやすいように手を加えた。

昼食はいつものようにカロリーメイトで済ませ、専門問題の資料に目を通す。

専門問題

予想問題というのは特に無かったが、「コンクリート」は、問題を見たとたん、あきらめた。

非破壊検査って・・・・・

とりあえず、答えられそうな問題を探した。

原価管理は、出来高と出来形の説明が大変だが、勉強してきた範囲で何とか記述できそうだ。あとは・・・・・？と探してみると、「Ⅰ-13.品質確保ついて・・」この問題は、基本的に１７年度に作った予想問題に酷似していた。結局、これらの問題を選択することとした。

しかし、両問題とも、昨年までと傾向が変わり、より具体的な設問となっており、問題の中の答えなければならないのもが、かなり多かった。（落とし穴？）

これらに正確に解答するため、番号のつけ方、記述の順番、共通事項についての記述方法等、文章構成にかなり苦労した。やっとの思いで書き終えたのが試験開始から、３時間１５分後、残り時間１５前のことである。

大急ぎで読み返し、アンダーラインを引き、完成した。残り５分となったときに、「もう一度確認するか」と何気なく答案をめくると、後半の２枚に受験番号が入っていなかった。
「よかった～“ 失格 ” の文字はしゃれにならよな」と急いで記入し、試験終了。

試験終了

漠然とではあるが、専門問題（特に原価管理）は合格点には、達していないような気がした。出来高、出来形の説明が不十分だったのではないかと思った。というのも、出来形は毎月、基準日を設け現地を測定し当月までに完成した部分の“ 数量 ” であり、出来高はその出来形に単価をかけ算出される“ 金額 “ という記述が無かったからだ。出来高について「金額」と記入するに躊躇してしまった。今考えると「出来高＝金額」は当然のことなのだが、試験中は、このことすら自信が持てなくなっていた。
試験直後は、「駄目だろうな」という考えが頭の中の大半を占めていた。

帰宅途中の車の中で、記述したことを思い出しているうち、「答えに足りないものはあるが、決定的な間違えは無いのでは？」と考え始めた。もしかしたら、もしかするかも。

帰宅し、妻が出迎え、「お疲れ様でした。」といつもと同じ言葉。本当に申し訳ない気持ちになる。つい１ヶ月ほど前に生まれた、３人目の子供（娘）が「おなかすいた」と泣いている。この２ヶ月ほど、出産・育児（上の２人も含め）で疲れているだろうに、文句も言わず、私を応援し続けてくれた。お礼の言葉も見つからない。
筆記試験が終り、論文の復元も終え、夏休みは、思い切り家族サービスをしようと思っていたが、まだ１ヶ月の子供をつれて、出かけることも出来ず、もっぱら、お風呂係と子供の遊び相手であったが、妻はそれでも喜んでくれた。

合格発表まで

合格の可能性が低いとしても、「準備をしていない人には、チャンスはやってこない」ということで、無駄になるかもしれないが、こつこつと経験論文に着手することとした。
今年、使うことが無くても、来年に使うかもしれないので全く無駄になるわけではない。
とはいいつつ、合格を確信できない状態での添削には、気が引ける。９月の下旬に１回目の案を〇〇さんに送らせて頂いた。〇〇さんは、快く引き受けてくださいました。本当にお願いしてよかったと感謝に絶えません。

合格発表前日

半ばあきらめていたが、やはり人間の思考とは都合の良いもので、「もしかしたら合格してるかも？」と根拠の無い、期待感が出てくる。とは考えるものの、当然、口には出せない。「まあ、不合格でも来年

受験して良い？」なんて冗談を言うぐらいしか出来ない。
　合格の可能性が低いとしても、朝一番で技術士会の合格発表を見ないわけには行かないので、夜１０：００には、布団に入った。

合格発表当日（平成 19 年 10 月 31 日）
　朝４：３０に起床、PC を起動する。
　前日にエクセルに合格発表のリンクを予想して貼り付けておいたのでファイルを開く。
　５：００、リンクをクリック→エラー　再度クリック→エラー　もう一回クリック→やっと表示された。「建設部門」をクリック。ドキドキしながら「施工計画、施工設備及び積算」をクリック。〇〇〇〇A〇〇〇〇と上から８番目なのですぐに確認できたが、あまりにあっけなく見つけたので、最初は信じられず、もう一度トップ画面から確認した。やっぱり、番号がある。合格した・・・・・
　「うぉ～！！！！！！！」と家族が１階で寝ているのも忘れ２階の PC の前で、叫んでしまった。妻があわてて上がってきて「合格！？」と第一声。私は、「奇跡だ！」としかいえなかった。妻も興奮気味に「すごいじゃん！合格だよ」と画面をみながら。
　しばらく、余韻に浸っていると、したから末っ子の泣き声。現実に引き戻される。
　しかし、この日のことは、一生忘れないだろう。
　その夜は、お寿司であった。妻が気を利かせ、３人の子供を連れて、車で３０分ほどの隣町までわざわざ、買いに行ってくれたようだ。本当にこんな家族を持ててうれしく、彼女と結婚できたことに感謝している。
口頭試験に向けて
　余韻に浸っているいたが、口頭試験まで１ヶ月半をきっている。
　今までのんびりやっていた、技術的体験論文も急ピッチで仕上げ、口頭試験対策の本も急遽購入した（有名な APEC さんの本である）。また、〇〇さん（講師の方）からも資料を頂き、想定問題と解答案を作り上げて行った。
　とは言っても、私の周辺には技術士はおろか、技術士を目指している人もいない。
　試験管役をやってくれる人がいないため、不安が増す。APEC さんの口頭試験対策講座も北海道では予定が無く、途方にくれていました。そこでガチンコ技術士学園の HP を見ると「模擬口頭試験全国ツアー」の受講者募集文字。早速応募。青い炎さんと始めてお会いすることとなる。
　青い炎さんに技術的体験論文を送付し、添削（他の講師の方に）を受け、修正を行い、技術士会に提出。
　試験まであと２週間というころに模擬試験があった。札幌にホテルを取り、車にて移動した。この模擬試験には、私と同時に受講された方が他に２人いらっしゃいましたが、２人とも合格を確信させる出来で、私は益々自信喪失状態でありました。しかし、青い炎さんやもう一人の講師の方にアドバイスを頂き、大変ためになりました。体験論文については、自分は経験したことなので、理解しているのですが、それを他人に伝えることの難しさや質問の意図を正確に把握することの重要性を知ることが出来ました。また、他の人の試験を見るというのは、客観的な視点で見ることが出来き、大変勉強になりまし

た。札幌での思い出は（模擬口頭試験全国ツアーでの）、まだ続くのですが、試験とは関係ないので省略します。

これらのアドバイスを元に自宅でも妻相手に経歴や業務の概要の説明、想定問題の問答による練習を繰り返しました。極度の上がり症の私には、とても良い訓練になり、実際の試験では、程よい緊張感の中で、試験を受けられました。APEC さんも HP で言われておりますが、訓練は大切です。こう答えよう、ああ答えようと整理していても、実際の会話の中では、思うように行かないことが多いと思います。相手があることですから、コミュニケーションをとりながら、理解を深めてもらわなくては、独りよがりの演説になってしまいます。

口頭試験前日

北海道からの受験であり、当日の移動はリスクが高いため、試験会場の近くにホテルを予約した。「今年は、ホテル代どのくらい使ったのかな？」なんてことも考えたりする。

釧路→羽田の飛行機に乗り、モノレールで浜松町。JR に乗り換え渋谷。私は、１０年ほど前、東京で電話関係の営業を１年ほどしていたので、移動はスムーズに出来た。どんな経験も無駄ではないということか。

ホテルに１３：００頃に到着したがチェックインが１５：００～だったのでホテルを素通りし、試験会場までの道のりを確認しに歩いてみた。

いろいろな道を３回ほど行ったりきたり（不審者に見られなくて良かった。）ちょっと遠いが一番解りやすい道で行くことを決めた。

ホテルに戻り、１４：００ではあったがチェックインが OK か確認したところ、快く案内してくれた。ホテルでは、経歴・業務概要の説明の練習をして、想定問答集に目を通した。１９：００になったので、近くのラーメン屋に行き食事をしたが、ラーメンはやっぱり札幌がおいしい（釧路のラーメンも私の口には合わない）。

食事を終え、ホテルに帰ってきたところ携帯が鳴り、出たところ、昨日までやっていた見積もりの件であった。試験工事の見積もりだったのだが、人口ケルミというものを造作する工事で、湿原内での工事を想定し、一切機械を使わないで木杭を打ち込んだりする工事で、既存の歩掛には無く、見積もりをとり物価調査会にかけるというもので、この見積もりについての確認であった。

何だかんだで、１時間もかかり、２１：００を回っていた。結局、このあと風呂にはいり、１時間ぐらい資料に目を通し、２２：３０には就寝した。

試験当日

朝７：００に起床。前日に購入しておいたパンを食べお茶を３口飲み（試験中にトイレ立つことの無いよう、水分を控えた）歯を磨き、顔を洗い、スーツに着替え、試験終了からチェックアウトまで時間がほとんど無いため、出発の準備も済ませ、自宅に電話し「頑張ってくる」と伝え、いざ出陣！。

６．H1９第二次試験口頭試験

試験日　：　平成１９年１２月１４日　AM９：４５～AM１０：３０
場　所　：　渋谷フォーラム８
部　門　：　建設部門（施工計画）

当日、受付を済ませ、指示された部屋の前で座って待っていると、男性２人がこちらに向って歩いてきました。私は、本日のトップバッターだとは思っていなかったため、のん気に「会場から、何にも聞こえてこないなあ。ずいぶん静かだなあ。」なんて思っていました。歩いてきた男性が試験官だとわかり、慌てて立ち上がり「おはようございます。」

もう、この時点でパニックでした。

試験官は、５０代後半の大学教授風(A 氏)と４０代後半と思われる公務員風（B 氏）の方でした。

進行役は A の方でした。

ドアが開き・・・

B 氏：「どうぞ、お入り下さい。」

と言われ、入室。

私：「失礼します。」

と、入り口付近で一礼。

入り口付近にあった、テーブルの上に荷物を置くように指示があり、荷物を置いて、椅子の左手に立ち。

私：「○○○○A○○○○の○○○○です。宜しく御願い致します。」

A 氏：「かけてください。」

私：「はい。失礼致します。」

と、椅子に座った。

私が極度に緊張していることが伝わったらしく

A 氏：「緊張しないでリラックスしていきましょう。」

私：「はい。」

とは言ったものの、この緊張は、最後までとけなかったのであった・・・・

A 氏：「北海道からは何時来られたのですか？」

私：「昨日です。」

A 氏：「遠いところご苦労様です。」

A 氏：「それでは、本題に入りたいと思います。あなたが技術士を受験しようと考えたきっかけは何ですか？」

私：「私が勤めている小さな会社でも、技術力が求められる時代になってきています。当社にはこれまで技術士はいませんでしたので、技術者にとって最高の資格である技術士を取得することで、私自身の社会的信用を高め、当社の技術力向上を図り、社会に貢献したいと考えました。」

A 氏：「それでは、あなたの経歴と技術的体験論文の内容について１０程度で説明してください。」
私：「はい。まず私の経歴ですが平成〇〇年に〇〇学校を卒業後・・・・・以上が私の経歴です。」
おそらく、この時点であまりにもゆっくり説明したため５程度使っていたと思われる。
「続いて、１の業務の内容を説明いたします。当該業務は・・・・・・」
業務の説明をしているのになぜか A 氏は、うなずきもせず、じーっと私を見ている。B 氏もなにやら手元の書類を見ている。私は、「理解できていないのでは？」と不安になり、概要のみ説明するつもりが、ついつい具体的な施工フローや数値にまで説明が及んでしまった。
「・・・・以上が１の業務です。」
B 氏：「２の業務についてずいぶん具体的に説明されましたが、どうしてですか？もう１０分になりましたよ。」
まずい、やっぱり喋りすぎた・・・・・
私：「１の業務については、略記になっており、理解していただくにはある程度具体的な説明が必要だと考えました。」
A 氏：「１の業務については、略記だから説明が必要だから詳しく説明し、２の業務については、詳しく書いてあるから、説明は要らないという考えですか？」
私：「いいえ、これから２の業務についても説明しようと・・・」
A 氏 B 氏：「ああ、そうですか。」
B 氏：「時間が過ぎていますので、簡素に説明してください。」
私：「はい。２の業務につきましては・・・・以上です。」
かなり、省略した形となってしまった。（おそらくこの時点で１５分ほど経過していた）
――――――――――――――――――――中　略――――――――――――――――――――
B 氏：「この業務が、技術士としてふさわしいと思う点を教えて下さい。」
私：「ろ過層の最も効率的な材料を検証すめ実験を行い、その結果から、最も効率的な材料を決定し、これにより確実に基準を満足する施設を考案したことです。」
B 氏：「〇〇さんの立場ですが、〇〇〇〇〇〇への出向だったのですね？」
私：「はい。」
B 氏：「いわゆる CM というものですね？」
私：「施工監理段階の CM にかなり近いものだと考えます。当時の業務としては CM という言葉は使われていませんでしたが。」
B 氏：「こういう、発注者側と受注者側との間に立つ難しい立場で、大変苦労されたと思いますが一番苦労した点とは何ですか？」
私：「濁水処理に係る基準を満足する・・を理解してもらうため試験結果・・」
B 氏：「そういった技術的な話ではなくて、中間の立場上の苦労した点を教えて下さい。」
私：「・・・え～、この業務は、発注者との契約で行い、主に発注者側の視点に立った施工監理であることから、発注者側に偏りがちになってしまいます。中立を保つことが難しかったです。
また、業務上設計変更等を決定する立場にありませんので、この工法が有効であることを

発注者に理解していただくのに苦労しました。この業務は、私一人の力では、できませんでした。発注者の協力・請負業者の協力が必要でしたので、その協力を得る点でも苦労しました。特に請負い業者には、あまりメリットは無く協力してもらうのに苦労しました。」

B 氏：「どのように、納得してもらいましたか？」

私：「発注者に対しては、他の工法との比較、検証実験結果を提示し、確実に条件を満足する工法であることを説明いたしました。請負業者には、この問題を解決しなければ、工事を進めることができず、早期の問題解決には、協力が必要だということを真剣に訴えました。」

B 氏：「請負業者の協力とは、具体的になんですか？」

私:「検証実験の協力と比較検討した可搬式濁水処理装置やマクロフィルターによる処理工法の資料の収集と見積をお願いしました。」

ここで本日の失敗２回目、余計なことを言ってしまった。

B 氏：「請負業者に見積を依頼するのは、公正中立の確保の観点からもおかしい！どう考えていたのですか？直接メーカーに問い合わせたり、インターネットで調べたりするべきでは？」

私：「機材の確保が困難なことと、厳寒期の北海道での施工実績が無いことから結果的には不採用となったので、そこまでは、考えが至りませんでした。気をつけなければならないと考えます。」

A 氏：「それでは、今後、公共工事を進める上で、発注者側が気をつけなければならない点※1 は何だと思いますか？」

私：「設計変更に対するスピードが足りないと考えます。設計変更というか、問題が発生したときの変更の指示のスピードアップが必要だと考えます。」

あとで、品質確保だろ！と思った。

A 氏：「あなたが、これまで経験した業務の中での失敗例を教えて下さい。」

私：「〇〇建設時代にコンクリートの温度管理・・・・・です。」

A 氏：「あなたの専門分野の技術についての方向性についてあなたの考えを述べてください。※2」

私：「近年、コンクリートの品質確保、耐久性向上が求まられています。様々な新技術などが試みられていますが、私は、今一度、基本に立ち戻り、厳密な施工管理による、ひび割れ防止、品質向上を行うべきと考えています。諸先輩が持っているノウハウ等を若い世代に継承し、教育を行うことなどの対策もとり、品質向上等を図るべきと考えます。

A 氏：「技術士の義務についてなのですが、資質向上や倫理観が求められてるようになってきていますが、どうしてだと考えますか？」

私：「近年、建設部門においては、様々な不祥事が続発しています。昨年の姉歯建築士による耐震強度偽装事件がありましたが、高等の専門技術を有する技術者が起す、反社会的行動は、公益を損なうばかりでなく、公の生命を危険にさらす行為で、その社会的影響の大きさを考えると絶対にあってはならないことだと考えます。よって、社会資本整備に責任ある立場で携る技術津者は、高い倫理観を持ち研鑽してゆかなければならないと考えます。

A 氏：「あなたは、研鑽していますか？」（にやっとしながら）

私：「はい。」

B 氏：「研鑽という話が出ましたが・・・・英語で・・・ご存知だと・・・」
私：「CPDS または、CPD ですか？」
B 氏：「そうです、その CPD の内容としてどのようなものがあるかご存知ですか？」
私：「シンポジュウムや研修への参加、技術論文の発表などがあります。」
B 氏：「あなたは、何かしていますか？」
私：「当社では、積極的に講習会への参加をしております。」
A 氏：「あなたは、講習会等に年何回くらい参加していますか？」
私：「様々な団体が主催する講習会を年に３回以上は参加しております。」
A 氏：「最近参加したものは、どんなものですか？」
私：「多少専門技術とは、離れてしまいますが、近年の電子納品の拡大がありますので、電子納品についての講習会に参加しました。」
B 氏：「論文は、発表していないのですか？」
私：「論文は、発表しておりません」
B 氏：「あなたの専門とする事項については、施工計画と積算とありますが、どちらが得意というか・・・特に専門とされていますか？」
私：「・・・どちらかというと施工計画です。」
B 氏：「では、積算から１つ、工事代金の支払い方法として、日本と欧米諸国の違いを教えて下さい」
　　やっぱりそうきたか・・・・とおもった。
私：「積算の方法では無く支払い方法ですか？欧米諸国ですか？」
「・・・・すみません。勉強不足で帰ってから勉強します。」
B 氏：「では、日本では、どういった風に支払われますか？」
　　かんべんしてくれない？
私：「日本では前渡し金・中間払いまたは部分払い・竣工時払いだったと思います。」
B 氏：「欧米では？」
私：え？まだ勘弁してくれないの？
「すみません、勉強不足です。」
B 氏：「もし、あなたが、技術士になったとして、発注者から公益に反する行為を行うよう指示をされた場合、あなたはどうしますか？」（ニヤッとしながら）
私：「まず、上司に報告します。それでもだめな場合でも、内部でできることで解決にむけ努力します。それでもだめであれば、しかるべき機関に公表します。とにかく、内部努力や説得に最大限努力します。」
B 氏：「公表ですか・・・・」
　　下を向きながら。私は、このときは気づかなかったのですが、帰りのエレベーターの前　で『“何で、[公表ですか・・・]といったのだろう“ あっ！やってしまった・・・・」本日最大のミスを犯してしまったことに気づく。「これは言ってはいけない」とずーと考えているうちにいってしまった・・・・もう後の祭り・・・・
A 氏：B 氏に向って、「よろしいですか？」

B 氏：「はい」
A 氏：では結構です。

私：「有難うございました。宜しく御願い致します。」
出口付近で荷物を持ったとき、「道中、お気をつけて」と言われました。
私は、再度「失礼します。」と一礼し、退出。
試験時間は、みっちり 45 分でした。

感想——
とにかく、緊張が頂点のまま進み、緊張がほぐれず終了した感じでした。
試験官の対応は、全般的には紳士的でした。しかし、見積の件については、かなり強い口調でした。
人事を尽くして？天命を待つ・・・・・。

帰宅し、妻に「今年は、だめだ。また来年宜しくお願いします。」というと、妻は、試験前に３週間にわたって、子供（３人）が入退院を繰り返したことについて語り「こちらこそ、子供たちの体調管理をできず、足を引っ張ってしまってごめんなさい。」と一言。
どこまでも私のことを気遣ってくれる家族のためにも、来年（平成 20 年度）には合格しなければと決意するともに、こんな家族をもてたことに感謝している毎日です。

振り返って--

１．業務の説明については、もっと練習すべきであった。
10 分という時間制約があるため、要約して簡素に説明し、質問が出る前提でいるべきであった。また、経歴についても、業務に係わるところを強調し、そのほかは、要約すべきであった。
２．あまり専門用語をつかって、質問されなかったので、回答も専門用語を使うことに躊躇してしまったため、かえって、説明が長くなってしまった。
あまり特殊な言葉でなければ、専門用語を用いて説明し、質問があればこたえるべきであった。
３．質問が、専門技術だったり、倫理だったり、一律でなかったため、質問の内容を理解できないまま、こたえていた部分があった。
例として
※1 発注者が気をつけるべき点は、
「品質の確保、入札契約の適正化、優良な技術者の確保」
※2 専門とする事項についての方向性
「建設一般では、地方の活力向上のため魅力ある地域作り」
「専門的には、地球温暖化などの環境配慮型の施工方法の推進」

４．技術士法や倫理要綱・デジョージ原則（トレードオフ）については、条文などをそのまま言うほうが望まかったと思う。あまり、自分の言葉でと考えすぎ、単純で致命的なミスを犯してしまった。

例えば、

「技術士の義務についてなのですが､資質向上や倫理観が求められようになってきていますが、どうしてだと考えますか？」にたいしては、

「近年、建設部門において、不祥事が多発しております。」

「高度な専門技術者が起す、反社会的行動は、技術者の倫理である、公衆の安全、健康及び福祉を念頭に置き、その使命、社会的地位及び職責を自覚し、日ごろから、専門技術の研鑽に励み、常に中立・公正を心がけ、選ばれた専門技術者としての自負を持ち行動することに反する行為であり絶対にあってはなりません。技術者は常に中立・公正を堅持し、公益確保を最優先に行動する必要がある。」

トレードオフに関しては、

公益通報者保護法とデジョージ原則を言うべきであった。

事実確認・上司報告・内部努力をやってみる。

それでも、事態が好転しない場合、

被害規模の確認（公益通報者保護法に照らす）・証拠の確認・成功見込の確認

を行い、公益通報が可能であれば、しかるべき「機関に通報」

一番の敵は、「緊張」であることを今更ながら、痛感しました。

一度、あせり始めると、言わなくて良いことまで言ってしまう。また、喋りながら考えるという最悪の様態になってしまう。

業務経歴 3 分、略述 3 分、詳述 4 分程度で説明できるよう、十分に訓練すべきであった。

技術的体験論文については、「余計なことは言わない。」「一問一答をこころがける。」「あれもこれも説明しようとはしない。」というのが大切だと感じました。

倫理等については、技術士法や倫理要綱を正確に回答することを心がけ、「あなたの言葉で」といわれたときに、身近な言葉で説明することとすべき（正確な回答により致命的ミスをなくす）。

何より、自分の力を信じ、良い緊張感のもとで試験に臨むことが最も重要だと感じました。

試験会場には、敵はいません。唯一の敵は自分の中にいるようです。

気づくのが遅かったですが・・・・・・・。　以上

追記・・合格発表後

不合格を確信していた私は、平成 20 年度の合格を目指し、準備を始めていました。

しかし、合格発表の日、技術士会の HP で確認したところ「合格」していました。信じられず、会社の昼休みに「官報」で名前を確認。やはり合格に間違いないようだ。

その晩は、残業は明日にまわし、家族と食事に出かけ、泥酔状態で帰宅した。次の日、妻に「なんだか、

よくわかんないこと言って泣いていたよ。よっぽど嬉しかったんだね。」

合格してまで、家族に迷惑をかけてしまった・・・・・。

また、来年も受験したいといったら妻は許してくれるだろうか？

建設部門-河川で合格したいという、欲が芽生えてきた私である。

以　上

norinari